

第5回チュートリアル概要と、プログラム

2016年5月11日 辰巳 格

読み障害の研究においては、読みにも固有の知識、「規則とレキシコン」を仮定するロゴジェン系のモデル(e.g., DRCモデル)が、広く行き渡っています。「認知神経心理学的モデルで考察」といえば、ほぼ例外なくロゴジェン系のモデルが登場します。また、純粹失読(LBL: Letter-By-Letter reading)では、損傷部位に関心があり、ある部位は漢字の、別の部位は仮名の病巣、といった議論が主で、他の失読症とは独立に論じられる傾向があります。

これに対して「トライアングル・モデル」となると、知っているのは名前だけ、という人もいるように見受けられます。そこで今回は、「読みの障害—コネクショニスト・アプローチ入門」と題して、規則やレキシコンなどを仮定しないコネクショニスト・モデルであるトライアングル・モデルを基礎からわかりやすく解説します。その上で深層、音韻、表層、純粹の各失読の障害メカニズムをトライアングル・モデルにもとづき説明します。

多くの方の参加をお待ちしております。参加申込等の詳細については以下をご参照下さい。

<http://cnps.umin.jp/pastcnp/Tutorial2016Registration.pdf>

内容の一部を紹介します(順不同)。

- ・純粹失読は、不純！
- ・読みには、意味と音韻による分業 division of labour がある
- ・漢字と仮名の処理経路は同じ。分業の程度が異なるだけ
- ・脳内にもトライアングル・モデル？
- ・読みにおける脳の背側路と腹側路、そして連絡路
- ・非一貫語の読みは、意味に依存する。依存度には個人差があり、脳活動にも個人差
- ・読みにも固有の規則やレキシコンがなくても読むことができる
- ・学習と、単語の出現頻度、親密度、一貫性、そして般化
- ・規則経路とレキシコン経路が独立なら、なぜ非語の読みだけが障害され、実在語の読みは「完璧」な症例、またはその逆の症状を示す症例がないのか
- ・意味認知症とは？その症状、行動、損傷部位

「読みの障害—コネクショニスト・アプローチ入門」(広島開催)

2016年 8月26日(金)

会場

サテライト・キャンパスひろしま
(広島市中区大手町)

委員長 渡辺 眞澄

県立広島大学 コミュニケーション障害学科

9:50	開会挨拶、司会 企画の趣旨	渡辺 眞澄 辰巳 格	LD・Dyslexiaセンター
10:00-11:15	トライアングル・モデルの基礎、 深層失読	三盃 亜美	大阪教育大学 教育学部
11:20-12:20	音韻失読の症状、評価、訓練	新貝 尚子	NTT東日本 関東病院 リハビリテーション科
12:20-13:20	昼食		
	司会	宇野 彰	筑波大学 人間総合科学研究系
13:20-14:20	表層失読:意味性認知症と、その他 の意味障害	小森 憲治郎	財団 新居浜病院 臨床心理科
14:30-15:50	音韻失読、表層失読とトライアングル・ モデル	伊集院 睦雄	県立広島大学 コミュニケーション障害学科
16:00-17:00	脳における復唱と読みのトライアングル・ モデル、および純粹失読	辰巳 格	